MEDECINS SANS FRONTIERES
国境なき医師団

プレスリリース　　2026年11月27日
国境なき医師団（MSF）

レバノン：イスラエルの攻撃が民間人と医療に与えた深刻な被害――国際人道法の順守を

レバノン南部で、イスラエルの攻撃が民間人の命を奪うとともに、医療にも深刻で長期にわたる被害をもたらしている。国境なき医師団（MSF）は報告書『誰も被害を免れない（No One Is Spared）』（英文）を発表し、イスラエルによる攻撃が激化した 2026 年前半に医療援助の現場で直面した民間人と医療の被害の実態を明らかにした。

MSF はイスラエルがレバノン南部で国際人道法を順守していないことに重大な懸念を表明し、各国政府に対し、紛争当事者が国際人道法を順守するよう働きかけることを求めている。

子どもや高齢者の命が奪われた

この報告書は、MSF がレバノン南部スール（ティール）のジャバル・アメル病院とナバティエのナジュデ・アルシャービーエ病院で救急・外傷診療を支援していた期間に現場で直接目撃した事実に基づいて作成された。

イスラエルの攻撃によって、子どもや高齢者、さらには一家全員の命が奪われたり、重傷を負ったりした状況が記録されている。医療・人道援助のニーズが高まり、多数の負傷者を繰り返し搬送する対応に追われる中で、医療施設や救急車も攻撃を受けた。

すべての紛争当事者は、国際人道法に基づく責任を果たさなければならない。とりわけ MSF はイスラエルに対し、民間人、医療従事者、救急隊員、救急車、を尊重・保護し、攻撃しないよう求める。紛争当事者に影響力を持つ国々は、これらの義務が順守され、民間人と医療に被害を及ぼす攻撃への対応が取られるよう、外交的・政治的に働きかける必要がある。

長期にわたる治療が必要に

MSF と支援先病院のスタッフは、爆風や破片などによる重度の外傷を負った患者の治療にあたった。爆発性兵器による負傷は多岐にわたり、強い圧力波による内臓や脳の損傷、破片による骨折、外傷性脳損傷、破片が突き刺さったことによる傷、爆発で体が吹き飛ばされたことによる鈍的外傷に加え、重度のやけど、圧迫損傷、煙の吸入による障害もあった。

MSF のレバノンにおける医療コーディネーターのルナ・ハマド医師はこう述べる。

「運ばれてきた患者さんは、体の内部に深刻な損傷を負い、骨は砕け、全身に数十個もの金属片が埋ま

っていました。こうした負傷は、人の体にも、命を救おうとする救急医療チームにも、対処しきれないほどの負担をもたらします」

こうした負傷の多くは、特定の兵器が使われたことを示していた。レバノン民間防衛隊は、ドローンから発射された弾薬には 3 つの種類があったと報告している。通常の爆発性弾薬に加え、刃を取り付けた弾薬と、小さな金属製の立方体が詰められた弾薬だ。MSF の医療スタッフは、この 3 種類すべてと整合する傷を治療した。最も多かったのは、金属製の立方体による破片が瞬時に体の複数の部位を貫いた傷だった。

攻撃を生き延びることは、困難な回復の道のりの始まりにすぎない。多くの患者は、複雑な手術を何度も受け、長期にわたる集中治療を必要とした。今後も追加の手術、身体機能のリハビリ、義肢、そして継続的な診療が必要になる。しかし多くの人にとって、こうした医療を受けることは依然として極めて難しい。

2026 年初めにイスラエルの攻撃が激化したことで、すでに専門スタッフや医療物資の不足に直面していた医療体制への負担はさらに増した。その結果、緊急性のない診療の縮小や停止を余儀なくされ、専門医療施設への紹介・搬送も困難になった。

医療も攻撃を免れない

民間人の死傷者が増える中、医療体制そのものも攻撃を受けた。MSF は、イスラエルの攻撃が医療施設、救急車、救急隊を直撃したり、危険なほど近くに着弾したりした事例に直面した。6 月 1 日にジャバル・アメル病院の周辺で起きたイスラエルの攻撃では、1 回の攻撃だけで医療従事者 39 人を含む 127 人が負傷した。攻撃が激化した期間中、1 つの攻撃で負傷した医療従事者の数としては最多だった。

攻撃後は、救急隊員や医療従事者が負傷した状態、あるいは遺体となって病院に搬送されてきた。その中には、攻撃による死傷者の救助や収容にあたっていた救急隊員が次の攻撃を受けたという事例もあった。

「知識と勇気をもって命を救ってきたかけがえのない人びとが、最も必要とされる医療活動の最中に殺害されました。彼らの死は避けられない悲劇ではなく、医療への攻撃が直接もたらした被害です」と、MSF のレバノン活動責任者、ギリェルメ・ボテリョは語る。

「彼らは母親であり、父親であり、同僚であり、地域社会を支える存在でした。自らに危険が及ぶにもかかわらず、戦争の被害を受けている地域にとどまった人びとです。私たちは心から彼らの死を悼みます」

国際人道法の順守を

レバノン南部の救急隊員や病院スタッフは、保護される保証もなく、活動上の厳しい制約がある中で、医療を提供して地域社会を支え続けた。

救急隊は安全に出動できるまで待たなければならず、隊員への深刻なリスクに対処する必要もあったため、救命処置は繰り返し遅れ、制限されたりした。こうした遅れによって、救急隊が現場で患者の容体を安定させるために使える時間は短くなり、救急車による搬送は困難を極めた。その結果、負傷者ががれきの下に閉じ込められる時間は長引くこととなった。

救急車は複数の患者を一度に搬送せざるを得ないこともあり、病院はスタッフ、物資、搬送先病院の選択肢が限られる中、突然押し寄せる多数の負傷者を受け入れた。乏しい医療資源をほかの診療から振り向けることになり、住民への通常の診療にも支障をきたした。

MSF は、レバノン南部でのイスラエルの攻撃が民間人と医療にもたらした深刻な被害に強い危機感を抱いている。国際人道法の順守は選択肢ではなく、必ず守らなければならないものだ。レバノン南部でも世界のどこでも、紛争下の民間人と医療は保護されなければならない。

以上

本件に関するお問い合わせ先：
特定非営利活動法人　国境なき医師団日本　広報担当：高橋哲子
携帯：090-5401-5176
E-mail: press@tokyo.msf.org　https://www.msf.or.jp
メディア向け X（旧ツイッター）アカウント：@MSFJ_Press